

北社会ニュース オ50号

2009年1月27日

発行者： 鈴木壮夫

“百年に一度の危機”の新年だそうです。全員にとって生まれて初めての“危機”の年だそうです。確かに、世界に冠たる日本企業の大幅赤字決算が連日報道されております。でも、待てよ！敗戦後の世の中を生きてきた世代から云わせれば“ちゃんちゃら、おかしい”のではないのでしょうか。マスコミの主体性を欠いた、“みんなで歩けばこわくない”独自性に基づかない報道の日々ではないのでしょうか。庶民はしっかりと歩いている。ふざけるな！そんな2009年も1月が終わろうとしております。

北社会、会員の皆様、今年もよろしくお願い致します。5人の世話人にて北社会を開催し続けて、6年目に入りました。毎年同じ事を言い続けて恐縮ですが、私達5人が世話人をお引き受けした時、「北社会」のあり方を次のように決めさせていただきました。

《会員ひとりひとりが当事者意識をさらに強め「発信・発光」する》

このあり方は“文武一道”の伝統を引き継いでいる会員の皆様のご協力によって、会員ひとりひとりのお気持ち深くに浸透し根ざしつつあることを世話人の私達は感じ取っております。より価値ある「北社会」にするには、会員皆様の当事者意識が絶対必要です。講師の推薦、会の運営方法等々会員の「義務」と認識いただき、北社会を支えて、二高の伝統を守って下さい。高校時代、川内で歌った応援歌等を口ずさんで下さい！！

(1) 本日、第268回 北社会

昨年の開催実績、会計報告等が終了しましたら、参加者お一人お一人に1～2分間のスピーチをお願い致します。近況、皆に伝えたいこと等々お話し下さい。

(2) 来月以降の北社会

2月16日(月) 講師：山下健二氏(高8回) 同窓会副会長

テーマ：二高同窓会活動について事務局と首都圏在住の同窓生との意見交換他。

“変” 昨年の一文字でした。昨年12月発行の同窓会報41号を読んだ最初の感想は“変”でした。原点に戻った編集がなされ始めたと嬉しく思いました。山下副会長も北社会の会員の皆さんとの意見交換を楽しみにしておられます。

3月下旬：開催日未定 講師：櫻井武寛氏(高14回) ◇一ノ蔵・前社長

いただいた年賀状に農業関係の三つの提案が記されておりました。(1) 海外の農産物を原料としている食品産業に一定割合国産農産物を使う義務を負わせる(2) 主食の米作に従事する全認定農家に対して、国が最低限の生活保証を行なう。(3) 徴兵制ならぬ徴農制により全国民が一定年齢に達したら農業に従事することを義務化する。規制緩和という甘言に踊らされた信念の無い国から脱皮しようではありませんかと。嬉しい年賀状でした。